

# だから職員が辞めていく ダメな施設を選ばないために 7

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-09-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡田, 耕一郎, 岡田, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/219">https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/219</a>

# だから職員が辞めていく



ダメな施設を選ばないために

老人ホームに就職した新入職員の中には、その施設のかなり独特な考え方を、うんざりするくらい強く押

しつけられて困惑しているケースも少なくない。先輩職員は、その考え方にどっぷりと漬かってならん違和感を感じていないよう、自分だけが浮いてしまっていることに不安を感じている。

経営組織の研究領域では、このような組織を「宗教的組織」と呼ぶことがある。「宗教的組織」という

## 価値観に拘束される職員

団のように強固な価値観を組織のメンバーに浸透させているような組織である。老人ホームの中には、この「宗教的組織」を見かけることがあるので、今回は「宗教的組織」を、就職先として老人ホームを選ぶ際のチェックポイントとして検討してみよう。

老人ホームにみられる「宗教的組織」とは、昔からある典型的なものでは、おむつ外し運動に入れ込んでいた施設や、小集団型介護を至上のものとする施設などがある。

その昔、おむつを付けっぱなしにして寝たきり老人

をつくり出しいることが問題になったことがあった。

おむつをする必要がないにもかかわらず、おむつを付けさせられている利用者があったことを反省して、現在まで、おむつを外すことに力を入れている施設は少なくない。確かにおむつを外し、自力で排泄できるようになるのはよいことだが、介護現場では奇妙なおむつ外し運動も見られるようになる。

おむつ外しの練習のためパンツをはかされ、一日に何度もパンツに失禁をして、その失敗が深く心に傷つき嘆いている利用者がいる。介護職員は専門職なので、どうしても専門的な試みをやってみたいという願望を常に持っているため、おむつ外しが専門職側の希望である面も否定できない。そのような場合は、おむつを外すことだけが重要視され、利用者の心は無視されることになる。

おむつ外しのため、利用者に自力で排便することを施設側が強く希望し、トイレに座らせっぱなしにして、あけくの果てに職員が利用者がトイレに座っていることを忘れてしまうケースも現実にあった。何時もトイレに放っておかれた利用者は不安でおびえていたはずだ。

おむつ外しは、まず利用者の希望と気持ちが優先されるべきであり、職員側の説得に利用者が応じない場合は、施設側がおむつを外すことを強制してはならない。おむつを外すことだけが絶対的な目標となってしまうのは余りに悲しいではないか。おむつを外すという価値観に縛られ、その施設のメンバーの心がそれに支配された組織はまさに「宗教的組織」である。

おむつ外しのため、利用者に自力で排便することを施設側が強く希望し、トイレに座らせっぱなしにして寝たきり老人

ちにとこは自明なのである。「専門バカにつける薬」(筒井書房刊)と、施設の大きさの問題にこだわってきた。

そんな声ののって脚光を浴びたのが、少人数を介護するグループホームや宅老所である。どちらも小規模施設で、認知症介護の切り札と言われ、大規模介護の老人ホームの問題を克服する新たな介護施設として、ニュースや新聞で報道された。世間の注目を集めてきた。

しかし、2005年2月に石川県のグループホームで、介護職員が84歳の認知症の利用者に暴行を加え、殺害する事件が発生した。夜勤の介護職員が、利用者に小型のファンヒーターを近づけて服の上から熱風を当て、顔や腹部、手足にやけどを負わせ、そのショックで死亡したという事件である。

この事件は、介護業界の関係者だけでなく、社会全体に非常に深刻に受け止められた。これまでグループホームのような小規模施設は手放しで「光の部分」が賞賛されてきたので、一般の人々は「闇の部分」があることを全く知らされてこなかったからである。そんな

「闇の部分」が白日のもとにさらされて、愕然とした利用者・家族も多い。

この事件に対しては、三好は「少人数でなじみの関係をつくるんだ、それで痴呆性老人は落ち着くんたというこも言われていた。下村恵美子さんたちが始めた『宅老所よりあい』を見て、『わあ、こんないいケアができる』というこで、それを全国に広めた、一翼を担ったという点では、私にも責任があるかなという気がしないでもない。私には、小規模だからあんまり言えないと、言ったつもりはありませぬ。大事なのは、大きさはなくケアの味なのです」(プリコラーージュ刊)

「あれは自分ではなかったか」下村恵美子他というコメントがされた。

そもそも利用者を少人数の集団にするだけで、利用者や職員なじみの関係ができてあがるわけではないのは自明のことである。しかし、施設の職員全体がそれを盲信し、小集団型介護至上主義の価値観を持った老人ホームもけっして少なくない。

このように、就職先として老人ホームを選ぶ際には、介護を合理的・科学的・常識的に考えることなく、迷信に支配されたような組織になっていないか、強固な価値観に支配された閉塞的な世界・精神的な拘束のように感じる組織にな